ブルゴーニュ大学　協定留学　月例報告書（1月）

大澤佳子

はじめに

留学生活最後の1ヶ月になりました。今回はパリ旅行の続きと学校生活、帰国についてお話ししたいと思います。

フランスでの年始

パリ市庁舎

クリスマス休暇の期間を利用して、パリへ旅行をしました。フランスの年末年始は未だクリスマスの飾り付けなどが残っており、日本のようなお正月感はありません。クリスマスの雰囲気のまま新たな年を迎えることは不思議な感覚でしたが、今までとは異なる年越し体験ができました。

元旦からポンピドゥー・センターやオランジュリー美術館に訪れました。

オランジュリー美術館では、ずっと観たいと思っていたモネの睡蓮を見ることができました。360度、モネの作品を堪能でき、穏やかで心地よい空間でした。

最終日にはマレ地区で雑貨やお土産をみました。マレ地区にはおしゃれなお店が沢山立ち並んでいて、散策するだけでも楽しむことができます。

フランスの芸術や年末年始の様子を堪能し、クリスマス休暇を存分に楽しむことができました。

オランジュリー美術館の
モネ《睡蓮》

学校生活と最後の試験

先生に感謝を伝える

バカンスが明けると、2週間ほどで学校が終わります。といっても、最後の1週間はテスト週間なので、授業があるのは1週間だけです。最終テストに向けて、勉強する日々が続きました。

最後の授業日には、友達と先生へお礼のプレゼントを渡しました。先生はとても喜んでくれて、これまでの感謝を伝えることができました。

最終テストはこれまでのテストとは違い、スピーキングテストがあったので、とても緊張していました。しかし友達とフランス語で会話したり、外出したりしてフランス語を話す頻度を増やしたおかげで、無事終えることができました。

テストを終えると、クラスメイトと写真を撮り、お別れをしました。今後はなかなか会えなくなると思うととても悲しかったですが、また会おうねと約束をして、学校生活が終了し

ました。

帰国

テストが終わると、帰国するまで 1 週間ほどでした。友達と 3 日間パリに滞在し、旅行から帰ると、クラスの友達が帰国する日になったので、寮でお見送りをしました。それまではあまり帰国するという実感がわかなかったのですが、お見送りをしているうちに、段々と自分ももうすぐ帰国するのだと寂しい気持ちになりました。

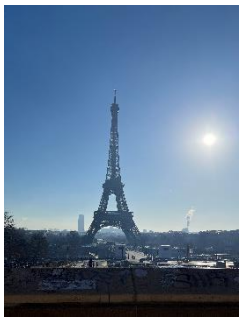
帰国する日は、朝から慌ただしく動きました。まず、寮の管理人の方に部屋をチェックしてもらい寮を出ました。留学当初は管理人の方と会話する際にフランス語が通じなかったり、聞き取れなかったりして苦労しました。しかし、最終日は特に問題もなく会話することができて、自分の中でも少し成長を感じることができました。

寮を出ると TGV に乗ってパリまで行き、そこからバスで空港まで向かいます。重い荷物を持ってひとりで帰国するので、空港までの移動がとても不安でしたが、TGV で乗り降りする時には男性が荷物を持って運んでくれました。最後までフランスの優しさに触れ、とても胸があたたかくなりました。

パリに着くとガルニエ宮の近くにあるロワシーバスに乗りました。このバスは空港とガルニエ宮を結ぶバスで、途中の停留所がないのでとても簡単に空港まで向かうことができます。空港に到着すると、ついに日本に帰るのだという実感が強くなりました。日本食が恋しくなっていましたが、まだフランスにいたいという気持ちが強く、とても寂しくなりました。

飛行機に乗ると、これまでの留学生活を思い返し、お世話になった家族、日本の大学の先生方や友達、そしてフランスの先生やクラスメイトに感謝の気持ちでいっぱいでした。

まとめ


エッフェル塔

今回の留学を通して、自分から積極的に動くことの大切さを学びました。

当初、授業では発言や質問を積極的に行うことができず、悔しい思いをしました。自分の中で間違えていたら恥ずかしいといった気持ちが邪魔をしていたからです。ただ沢山質問をする友達の方がフランス語の上達も早く、ただ恥ずかしいという気持ちが自分の成長を妨げていました。

交友関係においても、今まで人見知りだからという理由をつけて、積極的に友達作りをすることができませんでしたが、自分から話しかけることで、交友関係を築き、沢山の経験を得ることができました。

また、フランスでは気軽に美術館や博物館へ訪れることができ、日常的に様々な芸術に触れました。この経験をもとに、大学での勉強に一層励もうと思いました。

今回の留学で得たものを、今後の学生生活や就職などに活かしていこうと思います。